

湖頭

令和4年10月31日
富士市立須津小学校
学校だより（11月号）

本物にふれ、ともに感動できた喜び

校長 望月 秀一

先日、校庭から富士山が真っ白に雪化粧をし、雄大な姿を見ることができました。また、朝夕の冷え込みは寒さが感じられるようになり、秋が深まっています。

新型コロナウイルスの感染状況も7、8月に比べ落ち着いてきており、教育活動も感染対策をしながら順調にすすめることができ、実りの秋を迎えています。

15日には、まちづくり協議会主催で『須津ふるさと秋まつり』を開催していただきました。当初は、7月に予定されていましたが、「子どもたちのために楽しい時間を作ってあげたい。」との地域の皆様の温かな思いから、中止ではなく延期として開催していただくことができ、感謝しています。ありがとうございました。

当日は、900名近い参加者があり、子どもたちも300名を超え大盛況でした。各町内の皆様が考えていただいた遊びのお店も、子どもたちに大好評で、笑顔一杯で、楽しく活動することができました。私はこの光景を見ていて、子どもたちの嬉しそうな表情とともに、地域の皆様も、子どもたちの喜ぶ姿を見て、とても嬉しそうに笑顔で接していて、見ていた私も心が温かくなりました。



『子どもの笑顔！大人の笑顔！ともにしあわせ！！』現在、核家族化やSNSの発達によるライフスタイルの多様化によって、人と人とのつながりが希薄になっていると言われています。このような中で、学校と地域が一緒になって、子どもの健やかな成長に関わり、育てていくことが求められています。今回のふるさと秋まつりを通して、地域の皆様が、子どもたちの成長を支えていただいていると改めて感じました。子どもたちにとって、地域の方々との温かなふれあいが、将来、郷土を支え、愛する心につながっていくと思います。また、子どもたちが、地域のために活動する大人の背中を見て、地域の一員として「自分たちにできることはないか。」を考えるきっかけとなるよう働きかけていきたいと思っています。



19日には、ロゼシアター主催の『学校コンサート』があり、打楽器の演奏を聴くことができました。子どもたちは、生の演奏を目の当たりにして、演奏の迫力に魅了されながら手拍子を打ってリズムを取り、楽しい時間を過ごしていました。迫力のある演奏とともに、演奏者の巧みな技から繰り出すユーモアを交えたパフォーマンスに、笑い声が体育館いっぱいに広がりました。子どもたちの心が揺さぶられ、本物にふれた感動で瞳が輝いていました。演奏者の方から、子どもたちが喜んでくれている姿を見て、「私たちもエネルギーをもらい、更に音楽活動への意欲につながった。」とお話をいただきました。鑑賞させてもらった私たちも、演奏者の方も、ともに感動できた時間になりました。



明日は11月1日。本校にとって大切な節目である『創立150周年記念式典』と併せて、子どもたちが楽しみにしている『すどっ子カーニバル』を行います。これからも、保護者や地域の皆様とともに、子どもたちの成長を支えながら歴史を刻んでいきたいと思っています。

これからも、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。